

資料 2

環境市民会議(第7回)

二俣尾 実地研修報告

日時：平成28年11月17日(木) 13時～16時

実施場所：青梅市 二俣尾 武蔵野市民の森 自然体験館



視察の概要

視察目的

本市は市外での自然環境保護の取組みとして、二俣尾や奥多摩の森林を都や地元自治体等との連携の上、管理を行い、「二俣尾・武蔵野の森自然体験館」においては、一般向け、青少年向けの自然体験活動や環境啓発事業も展開している。

今回、実際に「二俣尾・武蔵野の森自然体験館」の見学を行い、こうした市外での取り組みを知ること、今後、市民・事業者・行政がどのように自然環境保護や生物多様性の充実に関わっていけばよいかを考える機会とする。

参加者

○委員 6名

○市職員 5名（環境政策課3名、緑のまち推進課2名）

見学スケジュール

時間	内容
12時40分	J R 二俣尾駅集合
12時50分	自然体験館到着
13時～13時40分	自然体験館の概要説明 市が二俣尾で事業に取り組む目的及び事業説明
13時50分～15時	付近の森の見学
15時～16時	意見交換

二俣尾にて取り組む事業について



緑のまち推進課職員からの
レクチャー

平成13年8月に山林所有者、（公材）東京都農林水産振興財団、武蔵野市により「二俣尾・武蔵野市民の森に関する協定」を締結し、森林施業実施計画の策定、間伐、間伐材搬出、林間刈払い、補植、歩道整備などを実施している。

また、都市住民も恩恵を受けているという考えのもと、森を守ることの必要性などの認識を深め、森林を含む自然環境保全に対する一人ひとりの意識を高めるために、森林を活用した事業を行っている。

二俣尾・自然体験館

多種多様な自然体験学習、武蔵野市にはない体験の提供を目的として、平成18年7月に開館。建物は多摩産材の木造建築で、天井が高く、風通しのよい設計になっている。

- 所在地 青梅市二俣尾4丁目1115番地
- 敷地面積 1387m²
- 延床面積 123m²
- 設備 畳スペース、トイレ、シャワー完備



外観

<実施事業>

- 森の市民講座
- 自然観察会
- 土曜学校(森林体験教室)
- 家族で楽しむ二俣尾自然体験
- デイキャンプ講習 (中高生リーダー)

「奥多摩・武蔵野の森」事業

実施前(シカの食害 荒廃状況)



- 奥多摩で取り組む事業
- 東京都の森林の現状
- 木材利用の取組み 等説明

事業実施後
(整備・再生中)



付近の森の見学



自然体験館から裏山に向かい
体験事業等で使用している
コースを歩きました。





コースの入り口には事業説明用の案内板が設置されています。

鹿の糞が見られました。付近にも動物が生息しています。当日は熊の出没情報が出ていた時でもありました。



地元の方々の尽力により、杉の管理がなされている個所等、随時担当から説明。





間伐により整備が行き届くと日が入り
良好な環境が保たれます。(上図)
市の事業で子どもたちが作ったツリー
ハウスもあります。(右図)





急な山道もあり、軽いトレッキングの気分も味わえるコースです。

自ら森林保全事業に取り組む山根委員からの詳しい説明もありました。



意見交換



見学終了後は館に戻り
感想の発表と意見交換
を行いました。

<テーマ>

- ①事業、体験館、森を歩いてみての感想
- ②森林資源を活用してできる事業について
今後市民・市民団体・企業・行政の活動につなげられる可能性

挙げた意見

- 知らなかった。市民にもあまり知られていないのでは。もったいない。
- 武蔵野の水がおいしいのは奥多摩の森林のおかげ
- 二俣尾や奥多摩などのこれらの取組みは武蔵野市の強み。これらの施設をもっと活用してほしい。事業をさらに深めていく。熟成していくことが大切。
- 都市と山とのつながりを知ってもらう。現場で体験してもらうことが大切。シニアなどの活動の受け皿を作ればやってもらえる。そこで活動者自身も学び、環境への気づきや理解を広げることができる。
- 森に行くのは時間やお金がかかるので、たとえば木を加工して市内で使ってもらってはどうか。積み木にして保育園や学校で使ってもらうなど。木材利用で多くの人が森と人とのつながりを意識することができる
⇒興味を持ったら山へ足を運ぶ。
- 市としての取組みと、連携してやる取組みがある。
都が守りたいエリアを企業がCSRでやっている。すでにあるフィールドを使う。民間や企業が関わることで厚みが出てくる。



左図) ペレットストーブ。ペレットは奥多摩産材
右図) 敷地内で樹齢が一番の大杉